

学科名	建築・デザイン学科						
科目名	鋼構造及び演習						
科目区分	専門科目	単位数	3	開講時期	2年後期		
必修・選択の別	必修科目(建築工学コース)/選択科目(建築コース)/選択科目(デザインコース)						
担当者	津田和明						
授業の到達目標(シラバスから)	<p>受講者は、この授業の履修により、以下のことができるようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鋼構造建物の特性の理解、その耐震設計法の概要の理解。 ・鉄骨材料の特性の理解。 ・鉄骨部材の特性の理解、それら部材の設計。 <p>この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー1-1)、2-2)、4の達成に関与しています。</p>						
日程と内容	<p>9/15 導入講義 9/29 引張力を受ける部材 10/6 圧縮力を受ける部材と曲げ座屈 10/13 曲げ応力を受ける部材 10/20 軸力と曲げ応力を受ける部材 10/27 接合要素 ボルト接合 11/10 溶接接合 11/12 梁の設計-1 11/17 梁の設計-2 11/24 梁の設計-3 12/1 柱の設計-1 12/8 柱の設計-2 ブレースの設計 12/15 継手の設計 12/22 仕口の設計 1/12 柱脚の設計 1/19 定期試験</p>						
成績評価基準	定期試験	80%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題	20%	計	100%			
	演習						
授業到達目標の達成度	今年度より、本科目を担当した。大半の受講生は構造には興味がなく、必修であるため、単位のみを望んでいた。その結果、秀0、優3、良9、可54名であった。しかも、試験では合格できず、レポートを提出または演習課題の再提出によって単位を与えた学生が28名もいる。このような状況で、目標に達したとは言い難い。						
反省点	この科目は計算が主であり、他校でも計算を重視している。しかし、本校では計画系志望の学生が多く、基本的な鋼構造の特性に特化した授業に変えた方が良いように思える。						
来年度の計画	来年度は、再履修生のみを対象とした授業となる。計算よりも鋼構造の特性に特化した授業を行う。						
授業評価アンケートに対するコメント	総合評価は、7.9点であった。やはり、数式の説明が主では興味がいただけなかった学生が多かったようである。						
履修登録者数	97名	定期試験 受験者数	83名	合格者数	66名	合格率	80%